1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101448		
法人名	社会福祉法人 暁会		
事業所名	グループホーム フェニックスの里		
所在地	山口県下関市小野64-1		
自己評価作成日	平成29年6月22日	評価結果市町受理日	平成29年10月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間の野鳥の囀りや季節の移り変わりを肌で感じられる環境の中で、心穏やかに生活出来る空間を提供できるように力を入れています。癒し効果のあるアロマ入浴剤を使用しています。地域の方と買い物や文化祭・祭りなどで接する機会を多く持っています。外出行事は毎月2回以上行っています。近所の方から農作物や花を頂くことが多く、入居者と一緒に調理したり、飾ったりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議は、新たに元民生委員が地域メンバーとして参加されて定期的に開催され、自治会長の意見から事業所の職員が消防分団に加入されたことで、事業所への理解や地域との連携も深められる他、防災訓練に、運営推進会議メンバーや地域の人の参加を得られるなど、地域との協体制の構築に取り組まれています。ヒヤリハット・事故等が発生した場合は、その場の職員が発生状況、対処内容を記録され、原因分析をされて対応策を検討した後に、定例会議時に周知徹底されています。その1ヶ月後に再検討されて介護計画に反映されるなど、利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止の徹底に努めておられます。管理者は、定例会議や個人面接などで職員からの意見や提案を聞く機会を設けておられる他、委員会活動や日常の業務の中でも聞いておられ、職員からは業務内容と働きやすい就業環境についての提案が出され、職員がゆとりを持って働く環境が利用者へのゆとりある支援につながることを話し合っておられるなど、就業環境の改善に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定例会議やミーティング等で理念や問題点を話し合う機会を持ち、理念を掲示し、地域密着型サービスの意義を理解する様努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している他、事業所だよりも掲載している。月1回の定例会議時や毎朝のミーティング時、カンファレンス時、日常業務の中で話し合い、共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	勝山地域の文化祭や芸術発表会への作品出展、地域の祭りやイベント・認知症カフェ・農園での野菜作り、水田作りに地域の協力を得ている。買い物や散歩などで近所の方と会話したり野菜や花の差し入れを頂いたりしている。	自治会に加入し、自治会便りを参考にして地域行事に参加している。職員は年1回ある自治会の草刈作業に参加している。利用者は地域の文化祭や芸術発表会に貼り絵等の作品を出展して参加し、見学している他、河童祭りや月1回の認知症カフェにも職員と一緒に参加して交流している。拠点施設合同で主催のお田植え祭りには、地域からの協力や参加があり、利用者も参加して交流している。拠点施設農園での野菜づくりや収穫時には地域の人の協力を得ている。散歩時や買物時に、地域の人と挨拶を交わしたり、花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや文化祭・認知症カフェなどに利用者と一緒に参加する事により、また、運営推進会で地域の方に認知症の理解や接し方について話す機会を持つことが出来ている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義については会議で話し合い全職員が自己評価表に記入し、評価で不足している項目の改善に取り組んでいる。	管理者は、評価の意義について定例会議で職員と話し合い、全職員に自己評価をするための書類を配布し、記入してもらい、定例会議等で話し合いを重ねて確認しまとめている。評価を活かして、「利用者の思いの把握」の取り組みや地域や消防分団の協力を得て防災(地震、火災時)訓練の合同開催実施や連携を図るなど、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状況、日々の活動内容や予定していることなど相談し地域の方の協力や意見交流の場としてサービスの向上に活かしている。	元民生委員を新たにメンバーに加えて、会議は年6回、定期的に開催している。行事予定や活動内容、業務内容、利用者の状況、外部評価結果等について報告をした後、防災訓練時の地域との協力などについて話し合いをしている。自治会長から職員の消防分団への加入を勧められ、職員が加入したことで、事業所への理解や地域との連携が深まっているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・議題の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市介護保険課や地域包括支援センターとの情報交換や相談で連絡を行っている。	市担当者とは、運営推進会議時や介護保険更新時、自己評価表提出時、集団指導時、電話、FAX、直接出向くなどして、情報交換したり、相談をして助言を得ているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議やメールなどで情報交換や事例相談、利用者状況の連絡を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修や勉強会で学習し、全員が周知し防止に努めている。外に見える玄関前の居間でお茶や作業したりし、自動ドアで自由に入出入り出来る解放的な環境でケアを行っている。	職員は、外部研修の復命報告や管理者が参加している拠点施設の身体拘束廃止委員会からの情報、内部研修等で学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。外出したい利用者があれば一緒に出かけたり、気分転換の工夫をして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者が指導している他、職員間でも注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学習し、職員会議等で発表し全職員が周知し防止に努めている。法人内の身体拘束廃止・虐待防止委員会へ参加し、常に人権擁護の意識を持ち、不適切な支援の段階で対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修や勉強会で学習し、職員も必要性を理解している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時には契約書・重要事項説明書等を用いて十分説明をし理解し同意の上行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情受付窓口として職員や外部機関、第三者委員を重要事項に明示し、説明している。また、玄関の目に付く場所に掲示している。入居者のご家族の訪問時には声掛けし要望等の問い掛けを行っている。	苦情相談窓口や受付体制を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明している。面会時や運営推進会議参加時、行事参加時、事業所だより送付時、電話等で家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。意見箱を設置している。個別のケアに対する相談や要望にはその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議(定例会議)で意見や提案を聞き法人の職員代表者会議に報告し、運営に反映出来るよう努めている。	管理者は、月1回の定例会議時や6カ月に1回の個人面接時等で職員の意見や提案を聴く機会を設けている他、委員会活動や日常業務の中でも聞いている。提案や要望は月1回ある拠点施設職員代表者会議に報告して反映している。職員からは業務内容と働きやすい就業環境についての提案があり、職員間で話し合い、職員がゆとりを持って働く環境が利用者へのゆとりある支援につながることを話し合い、就業環境の改善に取り組んでいる他、利用者が洗濯物を居室に間違いなく持ち帰れるよう専用のかごを準備しているなど、反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所に配置し各自がやりがいを持って働けるよう役割担当を持ち、自己研鑽出来る環境作りに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や事業所の研修に参加し、外部研修では研修報告書を提出し、定例会議で報告し、業務に役立てられるよう努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。認知症の研修に5回参加し、内部研修時に復命報告をして職員全員で共有し、資料はいつでも閲覧できるようにしている。拠点施設合同研修は、月1回実施(感染症対策、身体拘束、緊急時の対応、口腔ケア、接遇等)している。内部研修は、年間計画を作成して、職員が講師となって毎月実施(感染症の理解、高齢者虐待、身体拘束、緊急時対応、応急手当、ノロウイルスなど)している。法人では資格取得のための研修を実施して支援している。新人研修は、日常業務の中で先輩職員の指導を受けて働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の研修に参加したり、また山口県ひとづくり財団・山口県看護協会・認知症を地域で支えるまちづくり下関ネットワーク委員会等の開催する外部研修に参加し、交流する機会を持ちサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規に入居した場合、新しい環境に慣れていただけるよう担当のみでなく全職員で声掛けを行い、積極的に触れ合う時間を大切にし、本人の嗜好、要望や思いを取り込めるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメント時には必ず家族の要望や意見を聞き、介護計画に反映し、入居後も面会時などにコミュニケーションを図り、要望に添った関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に本人の状態や家族、ケアマネや関係する担当者から情報を収集し、他のサービスが必要な場合は法人内で対応できる体制をとっている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り家事や園芸など出来ることは一緒に行い、昔の事や生活の知恵などを教えて頂き、共に支え合う関係づくりに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の状況や状態を必要に応じて伝達し、また受診時や外出時可能な限り家族に同伴して頂き来所時にはゆっくりと面会して頂けるよう配慮している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接する通所施設の馴染みの人に会いに行ったり、友人の面会があったり、家族との食事や冠婚葬祭等の社会生活の関係維持の支援に努めている。	孫やひ孫を連れての家族の面会や親戚の人、近所の人、友人、知人の来訪がある他、電話や手紙、年賀状での交流の支援をしている。ペットに会うための一時帰宅や自宅周辺へのドライブ、家族の協力を得て外出、外食、馴染みの美容院の利用、仏様を拝みに帰宅、墓参、法事への出席、外泊、一時帰宅など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や性格を把握し、時には職員が間に入り、お互いに支え合う関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族からの相談希望があれば出来るだけ対応するように努め、関係施設に入居された場合は面会に行き、馴染めるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で希望や意向を聞き、家族や職員間で話し合いの機会(サービス担当者会議)を持ち共通理解が出来るよう努めている。	入居時のアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の発した言葉や表情、気づき、好きなことなどを介護記録に記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には家族や関係者から生活環境等の情報収集を行い、入居後も日々の生活の中からアセスメントをし、家族・職員相互間で把握できるようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様々の場面において観察をし、記録を残し、申し送り等を通し、現状把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議と1~6か月に一回のケアカンファレンスを行い1人ひとりの状態などについて意見交換を行い、家族とは訪問時や電話等で希望や意向を聞き、サービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しを行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心になって、月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の思い、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月から6ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に応じてその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録に日々記録し、スタッフ会議やケースカンファレンスに検討し、1~6か月に一回の介護計画の見直しを行い介護内容の改善を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズを把握し、可能な限り対応できるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	農園作業や文化祭などへの協力要請などを通じ地域の人達との関わりや楽しみのある暮らしを支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の訪問診療と体調変化時は電話やファックスによる相談をし受診支援している。情報は医師、家族、職員で共有し、必要に応じて専門医受診の支援を行っている。	本人や家族の納得を得て、利用者全員が、協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回、訪問診療がある。診療日の2日前にはFAXで受診情報を提供し、主治医の確認を得て受診支援をしている。他科受診も事業所で支援している。受診結果は電話や面会時に家族に伝えている。職員間では看護記録と、お薬情報に記録して共有している。夜間や緊急時には管理者(看護師)に連絡し、協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は利用者の健康状態を観察し、朝・夕のミーティングに参加し、介護職は日々の状態を伝え、指示や助言を受けて入居者の健康管理を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医とは日頃から連絡や相談を行っており、入退院時には情報交換やカンファレンスに参加し、入居者が安心できる環境をつくるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設の方針を説明しており、スタッフ会議で職員間でも情報を共有し、重度化した場合は、本人・家族と話し合い、事業所で出来る事を十分説明し、家族の望む方針を支援している。	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を家族に渡して、事業所ですることができる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は早い段階から家族の意向を聞き、主治医、看護師等、関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決めて共有して、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット報告書や事故発生時の報告書を全員で共有し対策を作成後、1ヵ月後の定例会議で評価検討している。施設内の研修によりAEDの使用訓練、緊急時対応、応急手当の方法などを身につけて行けるよう努力している。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット・事故報告書にその場にいた職員が発生状況、対処内容を記録し、その日の職員間で原因分析をして対応策を記録し、定例会議時に周知徹底している。1ヵ月後の定例会議時に再検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて拠点施設合同研修や内部研修で救急救命法やAEDの使用方法、感染症や緊急時の対応、食中毒の予防、熱中症、応急手当(包帯、三角巾)などに取り組んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を法人内(特養・障害・デイサービス・グループホームなど)・消防署及び地域住民の協力を得て行っている。	消防署の協力を得て拠点施設合同で昼間の火災を想定した通報訓練、消火、避難訓練を実施している他、法人で夜間想定での通報、消火、避難訓練を実施している。利用者や地域住民、運営推進会議メンバーの参加を得て、年1回、防災訓練も実施している。事業所の男性職員が地域の消防分団に加入している他、火災通報システムに地域の人の加入があり、協力を得ることができるなど、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修に参加したり、職員全員が1人ひとりの人格やプライバシーを大切にしたい声掛けに心掛けている。	拠点施設合同の接遇研修への参加や復命研修で学び、職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに注意するとともに、守秘義務についても遵守している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で好きな事、したい事などを問いかけながら、また意思表示の困難な方には表情や行動を観察しながらその人らしい生活が出来るよう援助している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの希望や生活習慣を大切にしその人らしい過ごし方ができるように援助している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば行きつけの美容院に行って頂き、毎月来ている移動美容室に申し込み、好みのカットができるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	居間から見えるキッチンで配膳し、ご飯の炊ける匂いを感じ、入居者が日中を過ごす居間に届くようになっていきます。また、食前のテーブルの準備を手伝って頂いたり、食後の下膳、食器洗いを一緒に行い食事の楽しみを共有できるよう支援している。	昼食と夕食の副食は拠点施設の厨房からの配食を利用し、朝食と御飯は事業所でつくっている。差し入れの野菜で1品つくこともある。利用者の状態や好みによって形態の工夫や食品交換をして提供している。利用者は、野菜の下ごしらえやテーブルを拭く、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで一緒に食事をしている。検食の職員の気づきを厨房に連絡したり、年2回、献立に関するアンケートを実施して、好き嫌いやアレルギーなどを把握して対応している。おやつづくり(シュークリーム、フルーツケーキ、ホットケーキ、バウンドケーキ、おはぎなど)や弁当を持参して戸外での食事、誕生日には利用者の好みのものを厨房に知らせて、事業所でケーキを準備したり、年3回の外食、季節行事食(おせち料理、節分、節句、ソーメン、クリスマス)、梅干しづくりなど食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分摂取量の記録を行い、居宅療養管理指導を受け管理栄養士による献立の内容や摂取量など検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い、就寝前には口腔洗浄を行うと共に、義歯を預かり消毒洗浄し衛生管理している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを実施し、排泄パターンの把握に努め、声掛けや誘導でトイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけをして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立や水分摂取の工夫と適切な運動を行い、適時の排泄誘導により自然排便を促している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日可能で本人の希望や体調によりシャワー浴や清拭の対応も行っている。	入浴は10時から12時までの間可能で、希望すれば毎日入浴できる。入浴時間や順番、好みの石鹸、アロマ入浴剤、季節の柚子湯等、本人の希望にそってゆったりとくつろいだ入浴になるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、入浴日の変更、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭やシャワー浴、足浴、部分浴、手浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣や夜間の状態、日々の体調を把握し、体調の状態により日中でもゆっくり休息がとれるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情書を閉じこみ職員がいつでも確認できるようにしており、必要に応じて協力医・専門医に状態の報告相談を看護師が行っている。また、服薬ミスの起きないように2重のチェックを行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの趣味や好物、希望を聞きながら、個々に合った活動を援助し楽しく過ごせるよう支援している。	テレビ視聴(時代劇、相撲等)、DVD視聴、新聞や本、雑誌を読む、日記をつける、季節の行事(節分、七夕祭り、敬老会、クリスマス会等)、貼り絵、ぬり絵、絵を描く、習字、折り紙しりとり、歌を歌う、ラジオ体操、棒体操、嚙下体操、足の運動、ボール投げ、脳トレ(漢字、計算)、月2回の生け花や書道、カスタネット、タンバリン、双六、かるた、トランプ、囲碁、お手玉、じゃんけん、食器洗い、テーブル拭き、野菜の下ごしらえ、下膳、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物を居室に持ち帰る、モップ掛け、雑巾がけ、カーテンの開閉、野菜づくり、花瓶の水換え、プランターの水やりなど、活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は体調を考慮しながら散歩や玄関前でお茶を飲みながら日光浴を行い、季節に合わせた外出行事や外食を行っている。また、家族との外出も出来るよう家族に声掛けや支援を行っている。	周辺の散歩や月2回の買物、季節の花見(梅、桜、菖蒲、チューリップ、コスモス、紅葉)、四季ごとの園芸センター見学、ドライブ(彦島、関門海峡、菊川道の駅)、初詣、月1回の認知症カフェ、東行庵、夢タウン、河童祭り、お田植え祭、地域の文化祭、芸術発表会に出かけている。家族の協力を得て外出、外食、一時帰宅、外泊、自宅の仏壇参り、墓参、法事へ参加するなど、一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設で行っている。外出時に買い物をするときは支払い個人に出来るだけさせて職員は援助しお釣りを領収書と預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば電話は何時でも出来る。手紙や年賀はがきなど希望に応じて準備し、家族とのやり取りができるように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には花や習字、皆で作った作品、フェニックスたより、カレンダーを飾っている。温湿度計を設置し、また、季節を感じられる外の風景を見れるよう配慮している。	玄関から続く共用空間は広く、室内には大きなソファが配置してあり、食堂のコーナーと共に利用者のくつろげる場所となっている。机上には生花が活けてあり、壁面には利用者の習字作品やカレンダー、事業所だよりを掲示して、七夕の大きな飾りに季節を感じることができる。台所やトイレは利用者が使いやすいように工夫し、清潔を心がけて、温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では自由に好きな場所に座り、気の合って者同士が会話を楽しんだり、独りのんびり過ごすことができるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み家具や調度品は、本人や家族と話し合いで使い慣れたもの、愛着のある物などで居心地よく過ごせるよう援助している。	テレビ、ラジカセ、置時計、寝具、衣装掛け、生活用品、観葉植物等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、生花や祝色紙、手づくりカレンダーを飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごせるようバリアフリーの床と各所に手すりが設置してあり、歩行器・シルバーカー利用者もいる。各自の機能に合った物品を準備し、声掛けや見守りをしながら自立支援を行っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム フェニックスの里

作成日：平成 29 年 10 月 26 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事故防止の取り組みや事故発生時の機敏な対応が難しい職員が有り、急変時や事故発生時に対して全ての職員が応急手当や初期対応が出来るように訓練や実践力を身につけていけるように取り組む必要がある。	職員が定着し、共通マニュアル(社会福祉法人協会)と事業所マニュアルにそって行動が出来ると同時に応用が出来る。	年間計画に内部研修として組み入れる。 研修担当は職員が担当する。 救急時の対応・応急手当・観察のポイント・気道確保・ハイムリヒ法・心肺蘇生など 119番通報・離設時対応・外出時の対応・車移動中の状態変化時など	1年
2	5	運営推進会議では利用者の状況や日々の活動報告・予定している事などは相談し地域の方の協力や意見交流の場としているがサービス向上につなげられるような議題の工夫につとめる事が必要である。	入居者が住み慣れた地域でより豊かに暮らすために地域の方にグループホームについての理解を深め、質をあげる。	運営推進会議では地域交流の場への参加(公民館イベント・地域イベント・市イベント・カフェ・公園・買い物など)日常的に出かけるために情報収集の場とする。 運営推進会議では議題に認知症の方への対応や知識も取り入れる。 得られた情報に基づいて包括支援センター主催の徘徊搜索模擬訓練に地域住民関連施設などと協力し職員が参加する。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。